

# 第 44 回日本体外循環技術医学会大会

## 大会終了のご挨拶

大会長 瓦谷義隆  
(金沢医科大学病院)

第 44 回日本体外循環技術医学会大会を 2018 年 11 月 10 日 (土)、11 日 (日) の両日にわたり、石川県金沢市の金沢市文化ホール・金沢ニューグランドホテル・石川県文教会館におきまして開催させていただきました。

” 弁当忘れても傘忘れるな ” という言葉があるくらい、金沢の天気は変わりやすく、1 年を通して非常に雨が降りやすい町ですが、会期中は秋晴れとなり 1,004 名 (会員 654 名、非会員 305 名、学生 3 名、招待 42 名) のご参加をいただき、大過なく盛会のうちに終了することができました。

本大会ではテーマとして「将来への架け橋～Technique と technology の融合～」を掲げました。僭越ではございましたが、大会長講演という形式でお時間をいただき、個々の技術・知識・経験に基づいた体外循環技術 ( technique ) と共に体外循環の安定した技術提供 ( technology ) を活用してとの内容で体外循環への想いというものを大会プログラム構成と一緒にお話させていただきました。また、百瀬新理事長の下での大会開催は本大会が初めてとなるため、理事長講演を設定し会員の皆さまへ「体外循環の現状の課題と今後の展望」としてご講演いただきました。特別講演では Off Pump CABG トレーニングシュミレーター (BEAT および YOUCAN) を開発されましたイービーエム株式会社 代表取締役社長・朴 栄光先生をお招きして、モノづくり —商品開発の道しるべ— の趣旨をもって「医師でない私がいかにしてシミュレータを開発、起業し、世界で手術トレーニングを進めるようになったか?」と題しご講演いただきました。これからのモノづくりに対する理解を深めることができたのではないかと思います。教育講演では早稲田大学名誉教授でございます酒井清孝先生をお招きして、「論文から学ぶ体外循環の将来像」と題しご講演いただきました。先生が研究されてこられた論文を中心に研究や開発への想い、夢に辿りつかせるための工夫などをご講演いただき、大会テーマである「将来への架け橋～technique と technology の融合～」達成のために会員一同で考える機会になったのではないかと思います。招請講演では元 AmSECT 理事長でございます George D. Galbraith 先生をお招きし、大会のサブテーマである「Fusion of the technique and the technology (テクニックとテクノロジーの融合)」と題しご講演をいただきました。米国での体外循環の変遷から現代の体外循環管理方法について新たな提言を発信いただけたのではないのでしょうか。また大会企画として、「体外循環における研究・開発への 1・2・3」と題したセミナーを開催いたしました。医工連携の実際、統計学の基礎、特許の取得方法、論文の書き方・必要性といった各分野で超越されました講師の先生よりご講演いただきました。今後の体外循環技術分野での研究・開発を担う人材育成のきっかけとなれば嬉しく存じます。フリーディスカッションでは、JaSECT 発足以前より活動をしていた歴史ある北陸地方会での開催ということもあり「歴史から学ぶ体外循環の将来像 温故創新」と題して日本体外循環技術研究会の会長を歴任されました間部 弘先生 (第 3 代日本体外循環技術研究会会長、北陸地方会名誉会員) と岸 三郎先生 (初代日本体外循環技術研究会会長) をお迎えいたしました。対談形式で JaSECT 設立のお話から当時の人工心肺装置等についても色々なご経験等をご教授いただける機会となりました。また大会特別展示として懐かしい人工心肺装置を

展示し、JaSECTの年表や歴代ポスターを掲示し、平成最後の大会としてJaSECTの歴史を総括できたのではないかと自負しております。日中学術交流セッションではFeilong HEI先生とCun Long先生に中国での体外循環や補助循環についてご講演をいただきました。中国からも37名の方が参加下さり、今後も両国の交流が更に盛んになればと思います。また参加いただいた方々から、どのセッションも講演が短いと感じさせられるご講演内容で、もっと長く話を聞きたかったとのご意見を多数いただきました。これもひとえに講師の先生方および司会・座長の皆さまのおかげと感謝申し上げます。これらの講演に加え、シンポジウムを6セッション、ラウンドテーブルディスカッションを4セッションを行いました。シンポジウムでは最近のトピックスを中心に企画構成し、高度医療の最先端として情報を提供いただき熱のこもった討議が行われました。ラウンドテーブルディスカッションでは個々の技術・知識の向上を目的に企画構成し、熱く議論されておられ、大変盛り上がりました。限られた時間ではございましたが、主要演題56演題、一般演題176演題（口演133演題、ポスター43演題）におきまして、熱気の中で質疑応答が活発に行われておりました。第44回大会が輝けるJaSECTの将来への架け橋となる大会になったのではないかと確信しております。

太鼓の音で始まった懇親会では、約300名の方々に参加をいただきました。金沢市会議員の秋島太先生と百瀬理事長よりご挨拶をいただき、初代JaSECT研究会会長の乾杯の音頭で開演致しました。会場では旧歴の人工心肺装置や昭和の時代の手術室風景、そして歴代の大会の模様など第25回大会（富山開催）を中心にスライドショーで供覧させていただきました。アワード・グラント表彰式、第45回大会（東海地方会）、第46回大会（関東甲信越地方会）と前日の代議員会で開催が決定されました第47回大会（九州地方会）の紹介をいただきました。金沢を中心とした北陸地方の幸を堪能していただけるよう、加能カニと日本酒は少し奮発致しましたが、参加いただいた皆さま方の交流や情報交換の場として楽しいひと時を過ごしていただけたように思います。名誉会員の方々も多数参加いただき、会員の皆さまとの交流を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

本大会の準備ならびに運営に関しましては、不行き届きの点も多々あったかと存じますが、何卒ご寛容のほどお願いいたします。3年前に代議員会でご承認を頂き、第44回大会を主宰させて頂く運びになりましたから、鋭意準備を進めてまいりました。北陸地方会としましては19年ぶりの全国大会開催であり、会員数も少なく極めて少人数での準備を進めて参りましたが、大会運営に不慣れなことも多く、準備段階より理事の皆さま、代議員の皆さまのご指導・ご協力をいただきました。会員の皆さまには演題募集において当初の目標を大幅に上回る180題もの演題をいただきました事、感謝申し上げます。そして医療機器材料等の償還費が下がっていくという医療情勢の厳しい中で、協賛企業各社等、多くの方々のご支援、ご協力をいただきました。心より厚く御礼申し上げます。本当に多くの皆さま方のご支援でどうにか無事に大会運営のつとめを果たせたのではないかと安堵いたしております。大会実行委員・運営委員を代表し、重ねて心より厚く御礼申し上げます。また、大会を開催するにあたり多大なご尽力をいただきました増野谷副大会長、櫻井事務局長、要田実行委員長、嶋岡プログラム委員長、家城査読委員長、木下企画委員長、高道大会統括役、間部大会顧問をはじめ、実行委員・運営委員、施設で待機いただき参加できなかった全ての北陸地方会会員ならびに石川県臨床工学技士会の皆さまには、一致団結してご協力いただいた賜と深く感謝いたしております。併せて大会誘致から支えて下さいました石川県、金沢市、金沢コンベンションビューローの皆さまに本誌面をお借りしてお礼申し上げます。

最後になりましたが、皆さま方の益々のご活躍とご健勝を申し上げ、そして日本体外循環技術医学会の斯界の更なる発展と、第45回大会（東海地方会・名古屋市）の成功を心より祈念いたしまして、大会締括のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。